

若い教員と部活動　そしてベテラン層の支援

部活動運営に関し、かつてから考えていたことに現在考えていることを織り交ぜて論じる。

ここでは、勤務を要しない週休日（原則土日）や休日（主に祝日）の部活動とこれらの日にまじめに部活動指導を行っている若い教員対象を対象とする。

現在、多くの先生が学校が休みの日に部活動指導を熱心に行っています。自分の中学生時代を思い出すと、部活動が大好きで、特に問題なく中学校時代を過ごさせていただけたのも熱心に部活動を指導してくださった先生方のご努力だと考えている。その関係で、自分も競技が好きだったこともあり、熱心に取り組んだと考えている。妻も部活動に参加していたことと私が指導していた競技を行っていた関係で、不満もありながら理解してくれていたようだ。

さて、今日の部活動指導を現場を離れて見て感じていることをあげると、大学出てすぐの若い教員が、土日休み無く部活動指導をしていることだ。基本半日の指導だが、残り半日は授業の準備や校務整理を行う。従って、ほぼ土日すべての時間を学校に関したことに使っていることになる。

遊びたいだろうし、家庭を持っている方はそちらへの時間を確保しなくてはならない。また、休養も必要だろうし、教員として教養を身につけること、友人（他の業界に関わる方々）との付き合い、そしてそこから、広い視野も身につけることも大事にしてほしい。

はたしてそんな時間が確保できているのだろうか？　教員はそんなもんだという狭い考えで日々すごしてしまっているのではないか気になるところである。

そこで、長年考えてきて今日確信することがある。

それは、私のような50歳過ぎの子供も一人立ちし、夫婦だけですごしているベテランの部活動支援である。副顧問として若者の主顧問に代わり、月に最低1日部活動の面倒を見ること、そして、若い顧問を部活動から完全に解放することである。

ここで問題が出る。熱心に指導している若い顧問は、1日1秒でも指導したい。しかし、真に強い部活動は、競技についてあまり知らない副顧問がいたとしても自主的にしっかり活動するものだ。主顧問からの拘束が無い中で自ら考え、部長のリーダーシップのもとで活動することは成長につながる。

ベテランの副顧問も練習場所で、活動を見ながら声をかけてあげればよい。専門的なアドバイスではなく、勝てば褒め、負ければ気がついたことを助言すればよいのである。

このような取り組みを行う中で、

若い世代が、リフレッシュでき、学び、教員として資質が高まり、

ベテラン世代は、若い世代の支援ができ、学校運営・生徒指導への確実な参画ができ、

何よりも生徒の自主性が育つ環境ができるのである。

各校状況が異なるが、基本、こんな取り組みができたらと30年間近く考えてきている。